

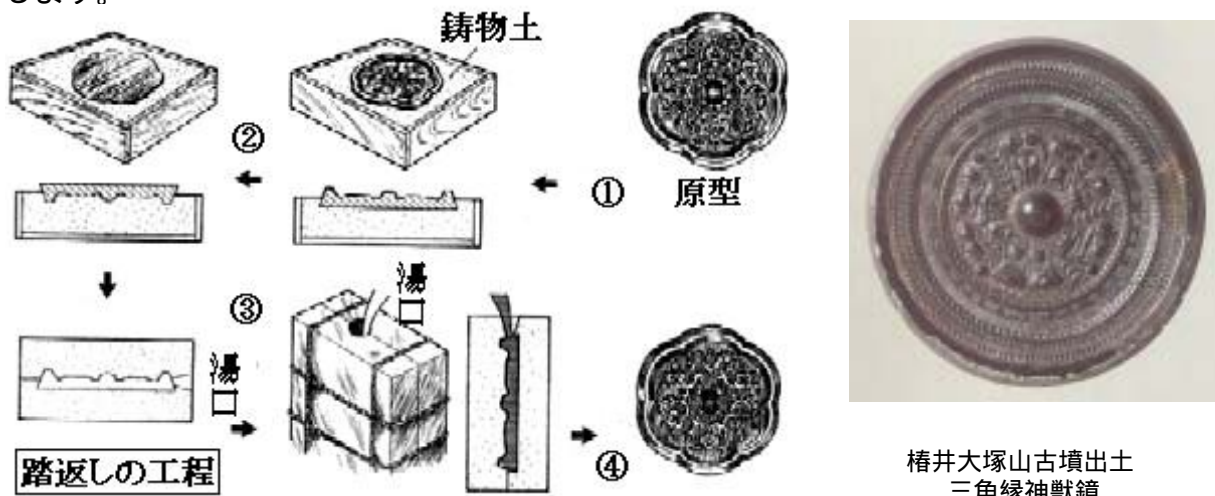


『 “卑弥呼の鏡” に新証拠！！ 』

“卑弥呼の鏡”に世界最先端の科学の光。大型放射光施設「Spring-8(スプリングエイト)」を使った分析で、三角縁神獣鏡(さんかくぶちしんじゅうきょう)に含まれる微量金属が3～4世紀の中国の鏡に近い比率と判明した。和歌山毒物力レー事件で、毒物の鑑定にも使われた世界最高水準の放射光施設が「古代史研究の新兵器」として、名乗りを上げた形。古代史最大の謎とされる「邪馬台国論争」解明への期待がかかり、将来、卑弥呼の鏡が魏(中国)から受け取ったとされる『銅鏡百枚』の特定につながるかも。研究者の夢はふくらむ。(以下略)

上の記事が毎日新聞(夕刊)5月15日(土曜日)に掲載されました。卑弥呼が好きだった鏡は実際に日常、顔を写す役割もしました。遺体に埋葬された鏡は頭の次に足元、ついで身体の周辺、石棺の蓋の上に置かれています。これは、太陽の光の代わりとして、また銅鏡自体の破邪(はじゃ)の力への期待が込められているのではとされています。破邪とは中国の思想からの影響で、『正体を暴く』にあります。神仙なら人の姿だが、鳥獣や悪い魑魅魍魎(ちみもうりょう)なら正体が鏡の中に見える！という考えです。

椿井大塚山古墳(京都府)・黒塚古墳(奈良県)から大量に出土しています。どんな方法で製造したのか？ここでは、古代の鑄造技術の一つ、踏み返しと云う製造法を図示します。



椿井大塚山古墳出土
三角縁神獣鏡

- 原型 完成した器物、ここでは鏡そのものを原型とする。
- 鑄型の製作 原型の上・下半分ずつを鑄物土に押しつけて型をとる。
- 鑄造 上・下の型をあわせ、あらかじめ熱した鑄型に熔融した青銅をながしこむ。
- 仕上げ 細部の調整をしたのち、磨いて仕上げる。

踏返しの手法では、鏡背の文様などが原型にくらべてにぶくなる。この手法は、新しい時期になって出現する原型を石膏などでつくって鑄造する込型(こみがた)にちかいいえます。

むらの鍛冶屋®

参考資料
技術の考古学 潮見 浩 有斐閣選書 1988年3月
倭国 -邪馬台国と大和王権- 京都国立博物館 1993年



何でもお気軽にお尋ねください！！

ホームページと電子メールをご利用ください。
URL <http://www2.memenet.or.jp/kinugawa/>
<http://www.kanamonoya.co.jp/>
ryou@memenet.or.jp